

狭山丘陵観光連携振興事業

—No.22 入間市—

【事業の目的】

当市は、狭山丘陵、加治丘陵の2つの丘陵と入間川、霞川、不老川の3つの河川に代表される豊かな自然に恵まれています。その狭山丘陵を囲む入間市、所沢市、東京都武蔵村山市、東村山市、東大和市、瑞穂町の自治体等が連携して狭山丘陵を観光資源として磨き上げ、様々な活用方法によりインバウンドを含めて多くの観光客を誘客することを目的としています。

【事業の内容】

東京都武蔵村山市、東村山市、東大和市が立ち上げた「狭山丘陵観光連携事業推進協議会」に正式に加盟し、狭山丘陵の観光事業に関する調査や事業プランを研究し、近隣市連携による観光資源の調査分析、事業計画の策定、事業の実施へと連なる自然環境を活かした観光的な開発に取り組みます。今年度は協議会に参加し計画の策定等に関わるとともに、当市独自の取組みとして市民レベルでの連携を強めるために東京都側の自治体が行う観光イベントに積極的に参加し、市民交流の場をつくり、当市が持つ狭山丘陵の魅力について発信していきます。

【事業年度】

平成30年度～平成32年度（3か年）

【予算額(千円)】

60千円（平成30年度）（消耗品費）

【財源】

一般財源（市）

【事業実施に至った背景・経緯】

国内外における情報化社会の進展、交通のネットワーク化と利便性の向上が進む現代においては、旅行者の行動範囲の拡大や旅行者ニーズの多様化に対応した地域側の積極的な誘客及び受入態勢の充実は非常に重要な課題です。

当市は、2つの丘陵と3つの河川等の自然に恵まれた地であり、これらの自然環境の観光的な活用を検討しているなか、武蔵村山市、東村山市、東大和市の3市が立ち上げた「狭山丘陵観光連携事業推進協議会」に平成29年度よりオブザーバーとして参加し、狭山丘陵の魅力発信の元となる基礎調査・分析作業に協力しました。このなかで狭山丘陵の魅力周辺自治体が連携し発信していく必要性が提起されたことから、当初協議会を組織した3自治体のほか、入間市、所沢市、瑞穂町が加入し、5市1町で連携協力して狭山丘陵全体の魅力発信を目指すものです。

【事業のPRポイント】

今回の自治体間連携により、狭山丘陵における歴史的財産や文化的事業、自然景観等を観光誘客に活用するために狭山丘陵を多様な観光資源として位置付け、その整備、維持、保存、活性化等の6自治体等の広域観光の実践的な取組が図られます。

併せて都立公園や県立公園管理関係の観光関連事業者とも連携し、特色ある文化的観光資源の活用や観光客の利便性の向上を狙い、景観や地域特性を生かした観光ビジョンを設定し、多くの主体者とともに地域の魅力を発信する事業を行うことができます。

【事業実績・成果・今後の展開】

今後の展開として、平成30年度に「狭山丘陵観光プラン」を策定します。

平成31年度は、今年度策定する「狭山丘陵観光プラン」の具現化に近隣市と連携、協力して取り組みます。

【参考資料】

狭山丘陵観光連携事業グランドイメージ

〔 連絡先 〕

商工観光課観光担当 04（2964）1111（内線4253）

「狭山丘陵観光連携事業」が目指すグランドイメージ

「自然資源」を活かした観光の地域連携モデルとして“全世界”へ発信



東村山市、東大和市、武蔵村山市、西武・狭山丘陵パートナーズの「狭山丘陵観光連携事業」
“狭山丘陵”のブランドイメージの向上 = 狭山丘陵周辺地域の「地域魅力」の向上
「住んでよかった」「住み続けたい」「訪れてみたい」「住みたい」と思える魅力あるエリア(環境)へ

ジャンプアップ！（４年目：平成３２年度以降）

事業展開・情報発信（チーム SAYAMA で）

ジャンプ！（３年目：平成３１年度）

記念イベントの実施、ガイドブック作成、プランに基づく事業展開・情報発信など

ステップ！（２年目：平成３０年度）

「基礎調査」を踏まえた「連携推進プラン」の検討・作成

⇒ 「狭山丘陵観光連携プラン(仮称)」の作成(発信)

・連携会議の開催（協議会３回、作業部会５回）、基礎調査を踏まえ「狭山丘陵」を核とした観光PR戦略・連携事業の検討、ガイドボランティア（担い手）の組織化の研究・検討、FC・観光協会など推進母体の研究・検討など

ホップ！（１年目：平成２９年度）

「基礎調査」の実施 ⇒ 「基礎調査報告書(概要版含む)」の作成(発信)

・連携会議の開催（協議会２回、作業部会５回）、各地域の観光資源（ソフト、ハード、地域ブランド含む）の洗い出し（整理・発掘・調査等）、効果的なPR発信方法・連携エリアの検討など